

## 小梅保育園 保育課程

保育理念		子ども達が安心してのびのびと過ごす事ができ、保護者の方が安心して預ける事のできるあたたかい保育					
保育方針		四季折々の自然に触れ、命の大切さを感じる心を育む。 安心かつ落ち着いて過ごし、自主的な遊びを通しての成長・発達を促す。		保育目標	いっしょうけんめいみんなと【あそぶ・かんがえる・まなぶ・たべる・ねる】 → <b>げんきなこころとからだ</b> をつくる。		
発達過程とクラスの相関性・		基本的社会的責任・		地域の実態に対応した事業・		保育時間・	
0歳児から5歳児まで、年齢別に6クラスの編成をとる。その中で3・4・5歳児についてはクラス編成上は分かれており、それぞれの指導計画が作成されるが、同一の保育室を使用しており、実質的には異年齢混合クラスとなっている。また、クラスは年間を通して不変的なものではなく、個々の成長や発達によって年度途中であっても柔軟に進級などが行なわれる。		法令の遵守をはじめ、人権の尊重、プライバシーの保護を重視する。また、直接契約を行なう事から情報公開・説明責任を果たして行く事も徹底して行なう。また、地域の社会資源として、職業体験などを積極的に受け入れる。		保護者の多様な働き方に対応し、可能な限り、要望や意向に沿うよう努めている。また、保育の専門性を地域に還元していく事業を積極的に展開している。(子育てイベントへの保育士派遣・絵本の貸し出し、子育て相談等)		7:30～20:30 (日・祝・年末年始を除く)	
						主な行事・	
子どもの保育目標		小規模保育園ならではの、きめ細かく、個性や自主性を尊重する保育を通じてのびのびと成長する子ども 集団生活の中で、周りの人々と協調していくことができ、その中でルールや約束を自覚することが出来る子ども					
		全体像		この2つをバランスよく併せ持つ、メリハリのある生活を営むことが出来る子ども			
		0歳児 (つぼみ組)	誕生から急激に発達を遂げる子ども達の個々の成長に合わせ、保育園が安心して過ごすことのできる場所であると思うことができ、ゆったりとした環境の中でのびのびと生活をし、成長の喜びを感じることが出来る子ども	2歳児 (すみれ組)	自分の思いをはっきりと伝えられ、大人だけでなく子ども同士でも言葉を介し、意思の疎通が図れる子ども。年齢に見合った生活習慣やマナーを習得し(ほぼ自立)、対人関係を構築できる子ども。	4歳児 (ゆり組)	基本的な生活習慣が身につく、その上で子ども同士で問題の解決を図ることが出来る子ども。物事に取り組むにあたり、その後についての予測をもって臨むことができる子ども。
1歳児 (たんぼぼ組)	手足の発達や言語の発達が著しく見られる中で、身近な環境に何でも興味を持ち、自分の思いを周りの大人に伝えられる子ども。自分の思いと集団生活の一員としての自制心をバランスよく共有できる子ども。	3歳児 (もも組)	異年齢クラスの一員となり、友達同士の関わりや保育士との関わりの中で、自我と周囲との関係をよりバランスよく保つことが出来る子ども。自分の周りのあらゆる物に思いやりの心を持つことが出来る子ども。	5歳児 (ひまわり組)	小学校への入学に向けて、規則正しい生活習慣を身につけると共に、どのような課題に対しても集中力を持って臨むことが出来る子ども。今までの経験を活かし、予想や見通しを立て、物事の解決に創意工夫をもって対処できる子ども。		
家庭との連携		・安定的な保育の実現には、緊密な家庭との連携が不可欠である。よって出来る限りの情報公開と説明責任を果たす中で、家庭と園が同じ方向性をもって子どもに関わることが出来るように最大限努めていく。 → 具体的取り組み～個人面談・家庭と園との共通目標シート・保育参観(誕生会)・各種おたより・連絡帳等					
健康支援		・日々の視診 ・継続的な発達記録の作成 ・年10回の検診 ・感染症等への適切な対応 ・保護者への保健情報の提供		研修計画	・新保育指針に対する園内研修 ・個人別目標シートに基づく個々の研修計画の作成		
衛生管理		・安全・衛生管理マニュアルの作成と確実な実施 ・チェックリストの活用 ・害虫駆除、布団乾燥		特色ある保育	・日常の生活を大切にすることの出来る保育 ・四季折々の自然を感じる事の出来る保育 ・本物を感じる事の出来る保育(クラシックコンサートの開催) ・就学前の特別指導		
安全対策 事故防止		・毎月の避難、消火訓練 ・年2回の消防点検 ・救急救命講習の受講 ・ヒヤリ、ハットシートの活用		地域との連携	・高齢者施設との連携 ・職業体験の受け入れ ・祭りへの職員の参加		
保護者・子育て世帯 への支援		・保護者懇談会の実施 ・育児相談事業 ・絵本貸し出し事業 ・子育て関連情報の提供		自己評価	・園全体の評価(期別・年間) ・クラス毎の評価(期別・年間) ・保育士の自己評価(期別・年間)		
保育のねらい・内容							
		0歳児 (つぼみ組)	1歳児 (たんぼぼ組)	2歳児 (すみれ組)	3歳児 (もも組)	4歳児 (ゆり組)	5歳児 (ひまわり組)
養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 生活リズムの形成</li> <li>* 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする</li> <li>* 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。</li> <li>* 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 他児との関係を築いていく中での安全の確保</li> <li>* 食事・排泄・睡眠・着脱・身の回りの清潔への適切な援助</li> <li>* 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。</li> <li>* 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。</li> <li>* 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 食事・排泄・睡眠・着脱・身の回りの清潔への適切な援助</li> <li>* 自我の育ちへの把握と対応</li> <li>* 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。</li> <li>* 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。</li> <li>* 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 幼児クラスの中での安定した生活環境への適切な援助</li> <li>* 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。</li> <li>* 集団生活の中で、一人ひとりの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。</li> <li>* 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 基本的な生活習慣の確立</li> <li>* 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。</li> <li>* 集団生活の中で、一人ひとりの子どもの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。</li> <li>* 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 小学校に向けての生活習慣の習得</li> <li>* 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。</li> <li>* 集団生活の中で、一人ひとりの子どもの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。</li> <li>* 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。</li> </ul>
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 保育者が子どもにとって安心できる存在であることが認識できるような配慮</li> <li>* 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。</li> <li>* 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 人と物との関わりについての理解を深めていく為の援助</li> <li>* 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。</li> <li>* 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自己主張への配慮</li> <li>* 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。</li> <li>* 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自我を大切にしたい主体性を育成する中で自己肯定感を感じる事が出来るような働きかけ</li> <li>* 集団生活とのバランスをはかりながら、一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していき、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 主体性と協調性の安定的共存の中での自己肯定感の醸成</li> <li>* 一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していき、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 主体性と協調性の安定的調和と自己肯定感の増進</li> <li>* 一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していき、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。</li> </ul>
健康		<ul style="list-style-type: none"> <li>* 身の回りの世話を喜んでしてもらおう。また、自分からしようとする気持を表す。</li> <li>* 手足や体を動かす、姿勢を変える、移動するといった様々な運動的活動を十分にこなす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 歩行の確立や手指の発達(体を動かす事を楽しむ)</li> <li>* 食事や排泄の世話をしてもらおう中で、自分しようとする気持が芽生える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 基本的な機能の充実に伴い、遊びの幅が広がる。</li> <li>* 食事や排泄など簡単な身の周りの活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自分で出来る事に喜びを持ちながら、生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。</li> <li>* 戸外遊びを十分にこなしたり、集団での遊びを通じて、体を動かすことを楽しむ。</li> <li>* 自分の体調の変化に自ら気づき訴える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自分で出来る事の範囲を広げながら、生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。</li> <li>* 危険について気づき、それを避けることが出来るようになる。</li> <li>* 身近な道具を使ったり、集団的な遊びを通して体を動かすことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 様々な道具を使用し、複雑な運動や集団的な遊びを通して体を動かす事を楽しむ。</li> <li>* 健康の維持や安全の確保に必要な習慣や態度を身につける。</li> </ul>

教 育	人間関係	* 一人ひとりの子どもが生活の中で、保育者との応答的な関わりを通し、情緒的な絆を構築し、深めていく。	* 保育者と一人ひとりのつながりの中で、安定して生活する。 * 遊びを通して、子どもと相互の関わり合いをもつ。 * 身近な大人や友達に関心を持つ。	* 友達と一緒に遊ぶ楽しさを実感する。 * 徐々に幼児クラスの友達と関わりを持つ。	* 友達と協調しながら遊ぶ事を楽しむ。 * 異年齢児クラスでの年上の友達といる事に興味を持ち、関わりを楽しむ。 * 道徳心の芽生え	* 集団生活の中で、主体性を持って行動すると共に、自らを抑制する心もち、友達や保育士との関係の中で、そのバランスをはかるようになる。	* 更に積極的に集団での活動に参加する中で、目的の達成に向け、リーダーシップをとるようになる。 * 他者を尊重したり、役割分担を自ら行なえるようになる。 * 仲間の一人としての自覚を持てるようになる。
	環境	* 感覚の働きを豊かにしていき、その働きにより、人や物に関わろうとする。 * 聞く・見る・触る等の経験を通して、好奇心が芽生える。	* 身の回りのものに関心を持ち、さわったり、いじったりして遊ぶ。 * 動植物に興味を持つ。 * 色や形に興味を持つ。	* 自分のまわりで起こる様々な事象に関心を持ち、積極的に関わろうとする。 * 動植物への興味、色や形への興味を更に深める。	* 自然や動植物と関わる中でそれらと親しんだり、使ったりしながら十分に遊ぶ。 * 色や形の他、文字や数についても感心を示すようになる。	* 身近な自然や動植物への興味を深める中で、親しみや愛情を感じるようになる。 * 社会の事象に興味をもち、それらを選びに取り入れるようになる。	* 自分達の回りのものと自分との関係性を理解し、それらを選びに取り入れる中で多くの経験を積む。
	言葉	* 喃語を育んでいき、また、喃語に回答する中で、発語の意欲が芽生える。 * 喃語やかたこと意思表示することを楽しむ。 * 絵本に対する興味や好奇心が芽生える。	* 言葉を使うことを楽しむ。 * 生活の中で保育者に話しかけられたり、話したりすることを楽しむ。 * 絵本への興味や好奇心が増大する。	* 日常生活に必要な言葉を大よそ理解し、使用する。 * 絵本への興味から、自ら絵本を使って内容を理解しようとする。	* 言葉を使つてのやりとりがスムーズに行なえることで、喜びを感じるようになる。 * 絵本などの内容を理解した上で、楽しむ。 * 文字や数字、記号、標識に興味を持つ。	* 自分の体験したことや思ったことを言葉にして伝えられるようになる。 * 言葉をつかった遊びを楽しむ。 * 多くの言葉や言い回しを身につける。	* 自分の考えや、体験を整理して伝えることが出来ると共に、話を聞くことの楽しさを感じる。 * 絵本など言葉からイメージが広がるようになる。
	表現	* 表情の変化や体の動き、喃語等で欲求を表現する。 * 聞く・見る・触る等の感覚の働きを豊かにする。	* 言葉を使って意思を伝えようとする。 * 身の回りのものを使った遊びの中でイメージを膨らませる。 * 様々な素材に興味を持つ。	* 身の回りの様々なものを模倣する。 * 興味のあることや体験した事を遊びの中で表現する。 * 季節感を表現する。	* 様々なものを見たり、聞いたり、触れたりする中で、おかしさ、おもしろさ、美しさ、不思議さに気づく。 * 感じたことや体験した事を歌や動きを通じて表現する。	* 身近なものや社会事象への興味の深まりに伴い、それらを模倣したり、感じたことを表現する楽しみを覚える。 * 様々な道具をつかって豊かに表現をする。	* 様々な知識や経験を活かし、創意工夫を重ね、多くの手段で表現する。
食育	食を営む力の基礎	* 安心と安らぎの中でミルクを飲む心地よさを味わう。 * 様々な食べ物を見て、触って、味わって、自分で進んで食べようとする。	* お腹のすくリズムが持て、食べる事で満たされる心地よさを体験する。 * 様々な食べ物を見て、触って、噛んで味わって自分で進んで食べようとする。	* 様々な種類の食べ物や料理を味わい、食べたいもの、好きなものが増える。 * 保育士や友達と一緒に食べる楽しさを味わう。 * 食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ。	* 保育士や友達との和やかな食事を体験し、安心感や信頼感を高める。 * 栽培・収穫・調理に関心を持ったり、簡単な準備を楽しむ。 * 食事に必要な基本的な態度や習慣を身につける。	* 栽培・収穫・調理などを通して全ての命を大切にすることを学ぶ。 * 健康と食べ物に関係に気づき話題にする。 * 食習慣やマナーを身につける。	* 自分の健康に関心を持ち、必要な食品の種類や働きを知り、進んで摂ろうとする。 * 産地からの流通・加工過程を知り、携わる人に感謝の気持ちを持って食事を味わう。 * 食事にふさわしい環境を考えて、落ち着いた雰囲気での食事を進める。
保育士の関わる姿勢		子ども達が安心して過ごすことの出来る場所を提供していくと同時に、子ども達のもっとも身近な大人の一人として、また、人間の基礎をつくる大事な時期に多くの時間を関わる者としての自覚を持つ。その上で、子どもの鏡となるような言葉かけや動きを通して、やさしさや思いやり、更には基礎的生活習慣の習得やルールの大切さを伝えていく。子ども達の人権を尊重すると共に、個々の個性を大切にし、のびのびと成長することが出来る環境設定を行なう。					
保育士の関わる姿勢		生きる喜びを子ども達と共有し、常に子ども達もゆったりと安心して過ごすことのできる環境設定に配慮する。個々の成長に合わせそれぞれの生活のリズムを大切にしながら保育を行なう。子どもと目を合わせながら常に言葉かけを行なう。体調の変化を見逃さず、保護者の方と共に専門職として子どもの成長を見守る。	子どもの気持ちを尊重し、子ども達が興味をもって取り組むことができる活動を計画する。特に取り組みの前にはこれから行なうことを言葉にして、子ども達の理解を促しながら、丁寧な関わりの中で子ども達が自分で出来ることを増やしていく。友達同士との関係をあたたく見守りながら必要に応じて、その架け橋となる。	自分でやりたいという子どもの思いを大切に受け止めながら、積極的に自分自身で取り組んでいけるように工夫し、出来たときにはその喜びを子ども達自身が実感できるように喜びを共有する。人としてのマナーや生活習慣を無理なく身につけられるよう配慮する。また、物事の善悪を適切な言葉を使い、わかりやすく伝えていく。	園での生活や遊びを通じて、自分一人で生きているのではなく、多くの人々との関わりの中で生活していることが実感できるよう配慮する。その上につけて、社会的生活を送っていくには様々な決まりごとがあり、したいこととしてではなく、また押し通していいこと、他者に耳を傾けなければならぬことを実例を通じ感じられるよう工夫する。	子ども達が興味をもって取り組める課題を設定すると共に、展開のある保育を実践する中で、子ども達の想像力や創意工夫を促していく。基礎的生活習慣の確立を目指し、できたときには喜びを分かち合い、できなくても取り組む姿勢を評価し、励ましていく。	子ども達の自主性を尊重し、遊び込める環境設定を行なう中で集中力を養っていく。特に集団で取り組む課題については、子ども達自身で話し合い、意見の集約が出来るよう、保育の中で子ども達に寄り添っていく。たくさん経験を積む中で、子ども自身が自信を持って就学を迎えることができるよう配慮する。